

日本史 B

追試験

2023
年度

問題番号 (配点)	設 問	解答番号	正 解	配 点	チ エ ツ ク	
第 1 問 (18)	問 1	1	①	3		
	問 2	2	④	3		
	問 3	3	③	3		
	問 4	4	③	3		
	問 5	5	⑦	3		
	問 6	6	①	3		
第 2 問 (16)	A	問 1	7	④	3	
		問 2	8	④	3	
	B	問 3	9	②	3	
		問 4	10	②	3	
		問 5	11	①	4	
第 3 問 (16)	問 1	12	④	3		
	問 2	13	③	3		
	問 3	14	④	3		
	問 4	15	②	4		
16		②	3			

問題番号 (配点)	設 問	解答番号	正 解	配 点	チ エ ツ ク	
第 4 問 (16)	問 1	17	③	3		
	問 2	18	②	3		
	問 3	19	⑤	3		
	問 4	20	②	3		
	問 5	21	③	4		
第 5 問 (12)	A	問 1	22	④	3	
		問 2	23	②	3	
	B	問 3	24	①	3	
		問 4	25	③	3	
第 6 問 (22)	A	問 1	26	①	4	
		問 2	27	②	3	
		問 3	28	③	3	
		問 4	29	①	3	
	B	問 5	30	②	3	
		問 6	31	④	3	
		問 7	32	③	3	

自己採点欄
100 点

第1問

やや難

《肖像に関する歴史的考察》

問1 1 正解は①

X. 正文。小村寿太郎が活躍したのは明治時代である。表1の「主に活躍した時代」によれば、政治・外交で活躍したのは古代3名、中世7名、近世4名なのに対し、近現代は10名と他の時代に比べ多く掲載されている。

Y. 正文。歌川広重は江戸時代に活躍した。表1における近世の「主に活躍した分野」によれば、学問・芸術の分野で活躍したのは6名で、政治・外交の分野で活躍した4名よりも多いことがわかる。

よって、X－正、Y－正となり、①が正解。

問2 2 正解は④

I. 黒田清輝の「湖畔」で、成立は明治時代である。

II. 高松塚古墳壁画で、1972年に発見。白鳳文化期の作品である。

III. 菱川師宣の「見返り美人図」で、元禄文化期の作品である。

よって、II（古代・白鳳文化）→III（近世・元禄文化）→I（近代・明治文化）の順となり、④が正解。

問3 3 正解は③

X. キリスト教布教のために1549年来日したイエズス会宣教師はスペイン人のフランシスコ＝ザビエルで、鹿兒島（＝上陸地点はb）に来航した。

Y. 1853年に軍艦4隻を率いて来日した東インド艦隊司令長官はペリーで、上海や琉球を経由して浦賀に来航した（＝推定航路はc）。

よって、X－b、Y－cが正しい組合せとなり、③が正解。

問4 4 正解は③

①**適当**。出家した人物を鬚まげのある俗人の姿で描くことがあったのか、出家と鬚の関係を他の作例に見出し、考察することは方法論としては正しい。

②**適当**。長谷川等伯が武田信玄の肖像画を制作することはありえたのか、面識の有無や活躍した場所・時期など、両者の関係を調べるのは方法論として正しい。

③**不適**。足利氏が二引両を初めて家紋に採用した時期を調べても、描かれた人物を特定する直接的な手掛かりとはならないので、方法論としては不適である。

④**適当**。鷹は肖像画の人物が誰であることを示す象徴として描かれた可能性があるもので、武田信玄が鷹狩を好んでいたかどうかを調べることには意味がある。

問5 5 正解は⑦

アには「袈裟を着て密教法具を持つ」が、イには「神仏と一体化した統治者」が、ウには「陸海軍を統帥する」が入る。

Xは礼盤らいばんに座る後醍醐天皇ごしんえいを描いた掛け軸、Yは明治天皇の「御真影」で、原画を制作したのはイタリア人画家のキヨソネである。

ア. 右手に五鈷杵ごこしよ、左手に五鈷鈴ごこれいという密教で用いる法具を握っている(= b)ことから、天皇は真言密教を信仰し庇護していたことが推察される。aの「禅宗の僧侶が用いる座具」とは曲まが衆しゆくろくと呼ばれる椅子である。

イ. 「春日大明神」「天照皇大神」「八幡大菩薩」の貼り紙から、天皇は神祇と仏法を統合した姿(= d)として描かれていることがわかる。cの「武力による支配」を示す図柄は、この肖像画からは何一つ読み取れない。また、「中国風の冕冠べんかん」や「中国と日本の天子の要素」から、建武の新政をすすめた天皇は政治的にも中国に対して強い意識をもっていたことが推察される。それは、光武帝が後漢を興した時の「建武」という年号を新たに用いたことにも表れている。

ウ. 「軍帽」「軍服」「サーベル」「勲章」は文明開化・富国強兵の象徴でもあり、「欧米列強における君主のイメージ」が強く表現されている。また、1889年には天皇を「国家の主権者」とする大日本帝国憲法が制定され、その第11条において、陸海軍の統帥(= e)は天皇大権として規定された。fの「日本国民を象徴する」のは、日本国憲法に規定された天皇の地位についての解釈である。

問6 6 正解は①

X. 菅原道真は宇多天皇に遣唐使の中止を建議し、和氣清麻呂は桓武天皇に平安京への遷都を建議した。藤原鎌足は改新政府において内臣として孝徳天皇の政治を支え、聖徳太子は推古天皇の政治を支えた。いずれも天皇に忠義を尽くしたことから判断して、特徴としては「忠君愛国(= a)」が正解となる。

Y. 新渡戸稲造は大学教授などを歴任した教育者、福沢諭吉は慶應義塾を創設した啓蒙思想家、野口英世は黄熱病の研究にあたった細菌学者。夏目漱石は『吾輩は猫である』など、紫式部は『源氏物語』など、樋口一葉は『たけくらべ』などを著した。教育者や文学者として活躍した人々が中心であることと、時代背景として、1985年に筑波研究学園都市(現在の茨城県つくば市)で国際科学技術博覧会が開催されていることを考えると、特徴としては「科学技術・文化のアピール(= c)」が正解となる。

よって、X-a、Y-cが正しい組合せとなり、①が正解。

第2問 — 古代の仏教文化

A 標準 《奈良時代の工芸品と行基の活躍》

問1 7 正解は④

写真1は興福寺八部衆像の一つ「阿修羅像」で、乾漆像の代表例である。写真2は「漆胡瓶」。正倉院宝物の一つで、鳥の形をしたペルシア風の水瓶である。

ア。「木を芯として数層の粘土を塗り固めて」制作されたのは塑像である。したがって、乾漆像を説明した「原型の上に麻布を巻き、漆で塗り固めて、後で原型を抜き取って」が正解。

イ。正倉院宝物の中には、「漆胡瓶」のほかにも「白瑠璃碗^{はくるりのわん}」のように、ササン朝ペルシアなど西アジアの影響を受けた品々もある。したがって、「唐や西アジアの影響を受けた」が正解。なお、「北魏様式の影響を受けた」作品には、飛鳥文化を代表する「法隆寺金堂釈迦三尊像」などがある。

問2 8 正解は④

①・②正文。「開墾を奨励する法令」とは743年の墾田永年私財法のこと。行基は民衆布教をすすめるかたわら、架橋や道路の修理のほか、灌漑施設や宿泊施設を作るなど、仏教思想にもとづいた社会事業にも尽力した。

③正文。行基ははじめ国家から弾圧されていたが、民衆の支持を集めていたために朝廷も彼を容認せざるを得なくなった。その結果、行基は大僧正に任じられて大仏造立事業に協力することとなった。

④誤文。「病人に薬を施し、貧民を救済する施設」とは施薬院・悲田院をさす。封戸を財源に施薬院・悲田院を設置したのは光明皇后である。

B 標準 《宮都の変遷と古代の仏教》

問3 9 正解は②

I。「明日香宮より藤原宮に遷りましし後」とあるので、694年に飛鳥浄御原宮から藤原京に遷都した時の歌とわかる。

II。「山背国葛野郡宇太村の地」に営まれたのは平安京（遷都は794年）である。

III. 紫香楽宮で大仏造立の詔が出されたのは743年である。

よって、I（694年・持統天皇の時代）→III（743年・聖武天皇の時代）→II（794年・桓武天皇の時代）の順となり、②が正解。

問4 10 正解は②

史料には、讃岐国から朝廷に対し「満濃池の改修にあたり、人望の厚い空海を修築事業の統括者に任じて讃岐国に派遣してほしい」との要請があり、それを天皇が勅許で認めたことが記されている。人々に慕われていた空海の動員力に期待したもので、朝廷に要請したのは当時、讃岐国守を兼務していた清原夏野（のちに『令義解』を編纂）、勅許を与えたのは嵯峨天皇である。

X. 正文。史料の2～3行目に「山中に坐禅し、獸馴れ鳥狎る。海外に道を求め、虚往実帰す」とある。空海は804年に遣唐使に従って入唐し、806年に帰国。

Y. 誤文。空海が讃岐国に要請したのではなく、**讃岐国が朝廷に要請した**。よって、X—正、Y—誤となり、②が正解。

NOTE 日本の密教宗派の開祖

最澄…近江国生まれ…804年に入唐し、帰国後に天台宗を開く→比叡山延暦寺
空海…讃岐国生まれ…804年に入唐し、帰国後に真言宗を開く→高野山金剛峯寺

問5 11 正解は①

a. 正文。仏教の鎮護国家思想によって、聖武天皇は741年に国分寺建立の詔を發布し、地方豪族の協力を仰ぎながら諸国に国分寺・国分尼寺を造営させた。

b. 誤文。政府は僧尼令によって僧侶になる資格や手続きを定めたが、僧尼になれば課役が免除されることから、重い負担に苦しむ農民の中には許可なく得度して僧になる者（=私度僧）も現れた。

c. 正文。天台宗や真言宗の寺院の多くは山中に建てられ、旧来の山岳信仰と結びついて修験道がおこった。

d. 誤文。平安京への遷都において、**平城京の寺院が新京に移転することはなかった**。また大乘戒壇の設立は**最澄が朝廷に申請した**もので、平安京遷都に伴って設立されたものではない。

よって、a・cが正しい組合せとなり、①が正解。

第3問 標準 《中世の人々の暮らしと考え方》

問1 12 正解は④

Aには「宣旨」が、イには「神が主であり仏は従」が入る。

A. **宣旨枘**は後三条天皇が1072年に制定した公定枘で、鎌倉時代にかけて用いられた。京枘は、豊臣秀吉の太閤検地に際して定められた公定枘で、それまで一定していなかった枘の容量が京枘に統一された。

イ. 神本仏迹説とは、神が本地で、仏は神が仮に形を変えてこの世に現れたものと

する「**神主仏従**」の思想で、反本地垂迹説ともいう。度会家行は伊勢外宮の神官で、鎌倉時代末期に神本仏迹説の立場から伊勢神道を提唱した。

問2 **13** 正解は**③**

- ①誤文。**荘園**の増加が公領（**国衙領**）を圧迫したので、**荘園整理令**が発布された。
- ②誤文。大江広元は鎌倉幕府の公文所（のちの政所）の初代長官（＝別当）である。記録所の役人には学者の**大江匡房**らが登用された。
- ③**正文**。『愚管抄』には藤原頼通の抵抗によって摂関家の荘園は除外されたと記されているが、実際は摂関家の荘園も整理の対象となった。
- ④誤文。公領（**国衙領**）は武士ではなく、**国司**の支配下にあった。

問3 **14** 正解は**④**

I. 「年貢高を銭に換算」した表示方式を**貫高**という。戦国時代に普及し、戦国大名は家臣への軍役基準や領民への課税基準として貫高を用いた（＝**貫高制**）。

II. 「戦乱」とは**治承・寿永の乱**（＝**源平争乱**）、「新たな基準」とは**新補率法**をさす。「地頭を配置」から鎌倉時代のことと判断する。

III. 「内乱」とは**南北朝の動乱**のこと。「荘園や公領の年貢の半分を軍費として調達するよう守護に命じた」とは、1352年にはじまる**半済令**をさす。

よって、II（鎌倉時代）→III（南北朝時代）→I（戦国時代）の順となり、**④**が正解。

問4 (1) **15** 正解は**②**

a. **正文**。重藤十六名の枡の容量は0.867斗，下行枡の容量は0.585斗なので，下行枡で支給すると，東寺のもとには一枡当たり差額である0.282斗が収益として残る。

b. 誤文。公田で重藤十六名の枡が使われたのではなく，重藤十六名で公田の枡が使われた。

c. 誤文。d. **正文**。史料2から，代官は，枡の容量の違いによって生じた差額は代官の収益とするのが先例であると主張していることがわかる。

よって，a・dが正しい組合せとなり，**②**が正解。

(2) **16** 正解は**②**

X. **正文**。史料1からは東寺，史料2からは代官，史料3からは百姓がそれぞれに有利になるように主張している様子を読み取れる。

Y. 誤文。「国一揆を起こした」内容は史料3からは読み取れない。

よって，X－正，Y－誤となり，**②**が正解。

第4問

標準

《江戸時代の社会と文化》

問1 17 正解は③

- ①誤文。両替商は三貨（金・銀・銭）の交換や秤量，為替・貸付などを行っていた。
- ②誤文。ケンペル著『日本誌』の一部を『鎖国論』と題して和訳したのは志筑忠雄で，1801年のことである。
- ③正文。オランダ商館が長崎の出島に移されたのは1641年である。
- ④誤文。赤穂浪士の討ち入り事件は1702年で，5代将軍徳川綱吉の時代。幕府が大名に対して末期養子の禁止を緩和したのは1651年の由井正雪の乱の後で，4代将軍徳川家綱の時代である。

問2 18 正解は②

- X. 正文。佐倉惣五郎は下総佐倉藩領の名主で，17世紀に年貢減免を求めて徳川家綱に直訴し，年貢減免を勝ち得たが死刑となった。命と引き換えに村民の利益を実現したことから英雄視され，のちに義民として伝承された。
 - Y. 誤文。「村々に常設された」が誤り。寄席は大衆演芸を興行する場所で，江戸・大坂などの都市部に常設された。
- よって，X—正，Y—誤となり，②が正解。

NOTE 江戸時代の百姓一揆の変遷

代表越訴型一揆（17世紀）→惣百姓一揆（18世紀）→世直し一揆（19世紀）

問3 19 正解は⑤

- I. 林子平は『海国兵談』を著して海防論を主張したが，幕府は人心を惑わすという理由で版木を没収し，1792年に彼を禁錮刑とした。
 - II. 異国船打払令（＝無二念打払令）は1825年に発布された。異国船打払政策にもとづいて，1837年にアメリカの商船モリソン号が浦賀と山川で砲撃を受け退去させられた事件に対し，高野長英は『戊戌夢物語』を著して幕府の措置を批判したため，1839年に処罰された（＝蛮社の獄）。
 - III. 漢訳洋書の輸入が緩和されたのは1720年。野呂元丈らにオランダ語の習得を命じたのは，8代将軍徳川吉宗である。
- よって，III（18世紀前期・徳川吉宗による享保の改革期）→I（18世紀後期・松平定信による寛政の改革期）→II（19世紀前期・徳川家斉による大御所時代）の順となり，⑤が正解。

問4 20 正解は②

アは「世相を風刺した絵入りの小説」、イは「松平定信」が入る。

- a. 適当。恋川春町は黄表紙作家として活躍した。黄表紙とは、風刺・滑稽を盛り込んだ絵入りの小説で、18世紀中～後期の田沼時代に盛んになったが、松平定信による寛政の改革で弾圧された。
- b. 不適。勸善懲悪を趣旨とする歴史長編小説を**読本**という。読む文章を主体とする文芸で、18世紀末期の寛政期以降に盛んになった。
- c. 不適。**徳川綱吉**は1690年に上野にあった林家の私塾を湯島に移し、**聖堂学問所**を整備して**林鳳岡**（信篤）を**大学頭**に任ずるなど、儒教を重視した政策を採ったが、黄表紙が「はやった時期」には該当しない。
- d. 適当。松平定信は1790年に**寛政異学の禁**を発して**朱子学**を正学とし、1797年に**昌平坂学問所**を発足させるなど儒学を重視した政策を採った。黄表紙がはやった時期と、それが弾圧されたことから考えると、松平定信が該当する。

問5 21 正解は③

- a. 不適。柳亭種彦の『**修紫田舎源氏**』は、『源氏物語』を俗文に改めたものを**母体として書き上げた冊子**なので、「父母が写して子どもに読み聞かせた」という解釈は誤り。
 - b. 適当。史料2の1行目に「世評噪がしきまでに行わる」、2～3行目に「世の婦幼の評す所也」とある。
 - c. 適当。史料2は**曲亭馬琴**が1834年頃に書いたもので、時期的には**徳川家斉**の大御所時代にあたる。特に文政年間（1818～30年）には品位を落とした**文政小判**を発行し、差益金で幕府財政を潤したが、物価の上昇を招く一方で**将軍や大奥**の生活は華美になった。
 - d. 不適。徳川家慶ではなく、**徳川家斉**が正しい。
- よって、b・cが正しい組合せとなり、③が正解。

第5問 — パスポートの歴史

A 易 《パリ万国博覧会と近代の海運》

問1 22 正解は④

X. 代表作に「**富嶽三十六景**」があるのは**葛飾北斎**（= b）で、1867年の**パリ万国博覧会**に**浮世絵**が出品され、**ジャポニスム**をもたらした。**喜多川歌麿**（= a）は**大首絵**の**美人画**を得意とした**浮世絵師**で、代表作に「**当時全盛美人揃**」などがある。

Y. 1864年から駐日公使に就いたフランス人は**ロッシュ** (= d) で、徳川慶喜に幕政改革を進言した。ボアソナード (= c) は1873年に来日したフランス人法学者で、刑法や民法の起草に尽力した。

よって、X－b， Y－dが正しい組合せとなり， ④が正解。

問2 **23** 正解は②

I. 岩崎弥太郎が興した海運会社は1873年に**三菱商会**と改称し，1874年の佐賀の乱や台湾出兵で軍事輸送を独占して巨利をあげた。

II. 日本郵船会社は**三菱汽船会社**と三井系の**共同運輸会社**が合併して1885年に成立した。1893年に綿花輸送のための**ボンベイ航路**，1896年には生糸・絹織物輸送のための**欧米航路**，羊毛輸入のための**オーストラリア航路**を開くなど，近代日本最大の海運会社として発展した。

III. **開拓使官有物払下げ事件**で1881年。

よって， I (1870年代)→III (1880年代)→II (1890年代)の順となり， ②が正解。

B **標準** 《パスポートの内容と外交事情》

問3 **24** 正解は①

X. 正文。「布哇国へ赴くに付き，通路故障なく旅行せしめ，且必要の保護扶助を与へられん事を其の筋の諸官に希望す」という内容から，ハワイ国の外交担当部署に対して，旅行する人の保護を依頼する文書であることがわかる。なお，ハワイは「**旅券**」が発行された1891年当時は王国で，共和国を経たのち1898年，米西戦争に勝利したアメリカによって併合された。

Y. 正文。大日本帝国憲法の第55条には「**國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス**」と定められている。

よって， X－正， Y－正となり， ①が正解。

問4 **25** 正解は③

＜史料の大意＞

史料1：下関条約で日本に割譲された地域 (= 台湾総督府の管轄区域) 以外に居住したい者は，自由に不動産を売却して退去してもよろしい。そのための措置期間を条約が批准される1895年5月8日から2年間とする。

史料2：1897年5月8日以前に台湾総督府の管轄区域外に退去しなかった者は，日本帝国の臣民とみなす。

a. 誤文。「不動産の売却を拒否した台湾住民」とは，台湾総督府の管轄区域に居住して日本帝国臣民とみなされ，パスポート交付の対象となった人々なので，

「台湾総督府管轄区域外に退去させられた」は明らかに誤り。

- b. **正文**。下関条約の批准（1895年5月8日）から2年間の猶予が与えられたので、1897年5月8日以降は居住地域によって、日本国籍が付与されたか否かが識別できた。
- c. **正文**。台湾では、割譲反対派によって台湾民主国の建国宣言がなされたが、日本は軍隊を派遣して制圧した。その後、台湾総督府のもとで、天皇崇拝や日本語の使用を強制するなどの同化政策をとり、民衆の抵抗を武力で抑えながら植民地政策を進めた。
- d. **誤文**。台湾に徴兵制が初めて導入されたのは太平洋戦争が激化した1944年で、全面的に施行されたのは1945年に入ってからである。したがって「下関条約の批准から2年後に」は誤り。
- よって、b・cが正しい組合せとなり、③が正解。

第6問 — 日本の漁業と対外関係

A **標準** 《近代漁業の発展》

問1 **26** 正解は①

- ①**適当**。1908～15年は日露漁業協約が効力をもっていた時期なので、日本漁船による漁獲量が増大したと考えられる。
- ②**不適**。1916～18年の時期は、第一次世界大戦を背景に**好景気**が到来していたので、「日本国内の不況による需要の減退」は明らかに誤り。
- ③**不適**。1919～21年にかけては**漁獲量が伸びている**ことから、日露漁業協約の失効による漁獲量への影響はなかったと考えられる。したがって「ロシア沿岸の漁場からの日本の漁業者の締め出しの影響が表れている」は誤り。
- ④**不適**。浜口雄幸は**1929年**に組閣して緊縮財政・産業合理化政策をすすめた。したがって1922～28年における漁獲量については、産業合理化政策が影響したものとは考えられない。

問2 **27** 正解は②

- X. 高橋由一は幕末から明治時代にかけて活躍した洋画家で、代表作に「鮭」などがある。
- Y. 小林多喜二は明治時代から昭和戦前にかけて活躍したプロレタリア文学の作家で、代表作に『蟹工船』などがある。1933年に特別高等警察に逮捕され、拷問を受け虐殺された。
- a. 「文化や生活の西洋化」「文明開化の風潮」から、時代は明治時代初期。

- b. 「第一次世界大戦後」から、時代は大正時代後期。
 - c. 「日清戦争前後」から、時代は明治時代中期～後期。「工場労働者たちによるストライキ」は1886年の甲府雨宮製糸ストが最初とされる。
 - d. 「各府県に特別高等警察が置かれ」たのは1928年なので、昭和時代初期。
- よって、X－a， Y－dが正しい組合せとなり，②が正解。

問3 28 正解は③

- I. 「9か国間の条約」とは、1922年に調印された九カ国条約のことで、これによって石井=ランシング協定は破棄されることとなった。
 - II. 「日米間の協定」とは、特派大使の石井菊次郎と国務長官ランシングとの間で1917年に交換公文の形で成立した石井=ランシング協定のこと。
 - III. 「補助艦の保有量を定めた」から、1930年のロンドン海軍軍縮条約とわかる。日本は補助艦の総トン数で対米英約7割を認められたが、条約に調印した立憲民政党の浜口雄幸内閣に対して、野党の立憲政友会や海軍軍令部・右翼などは統帥権干犯と攻撃した。
- よって、II（1917年）→I（1922年）→III（1930年）の順となり，③が正解。

問4 29 正解は①

- a. 正文。この会議が開かれたのは昭和3（=1928）年である。田中義一内閣は、居留日本人の保護を名目に1927～28年にかけて3回にわたって山東出兵を行い、1928年の第2次出兵では済南において蒋介石が率いる国民革命軍（=北伐軍）と交戦した（=済南事件）。
 - b. 誤文。辛亥革命が起こったのは1911年なので「1920年代には辛亥革命が起こり」は明らかに誤り。
 - c. 正文。史料2の1～2行目に「領海に屢々接近し之れが為め事端を惹起するも其の後に対策を講ずれば良い」とあり、3行目には「彼等に充分の注意を与うる事必要」とある。
 - d. 誤文。史料2の5～6行目に「支那側に於ても日本の出漁船に対し何等かの対策を講ずべき情報あれば、当業者に警告し」とあるので、「艦船を派遣して中国に警告する」は誤り。
- よって、a・cが正しい組合せとなり，①が正解。

B 標準 《戦後の漁業事情》

問5 30 正解は②

アには「サンフランシスコ平和条約」が、イには「日韓基本条約」が入る。

ア。「独立を回復」がヒント。**サンフランシスコ平和条約**は1951年、日本と48カ国との間で調印され、1952年に発効した。日米行政協定は日米安全保障条約の細目協定で、1952年に締結された。

イ。**日韓基本条約**は1965年に締結され、韓国政府を「朝鮮にある唯一の合法的な政府とする」ことなどが確認された。**日ソ基本条約**は1925年、加藤高明内閣の時に締結され、ソ連との国交が樹立された。

NOTE 日米安保と細目協定

- | |
|---|
| ①日米行政協定（1952年）…日米安全保障条約（1951年）の施行細目
②日米地位協定（1960年）…新安保条約成立（1960年）に伴い、日米行政協定を継承 |
|---|

問6 **31** 正解は**④**

X. 誤文。高度経済成長期には、石油化学コンビナートや製鉄所などの重化学工業地帯が関東地方から九州地方にかけての沿岸部に発達した（=**太平洋ベルト地帯**）ので、「内陸部にひろがった」は誤り。

Y. 誤文。「四大公害訴訟」とは熊本県・新潟県の水俣病、富山県のイタイイタイ病、三重県の日南市ぜんそくの患者が損害賠償を求めて起こした訴訟で、いずれも原告側が勝訴した。このうち水俣病とイタイイタイ病は工場廃液による水質汚濁、**日南市ぜんそく**は大気汚染が原因であった。したがって「水質汚濁を原因とする点で共通する」は誤り。

よって、X－誤、Y－誤となり、**④**が正解。

問7 **32** 正解は**③**

①不適。朝鮮特需とは、朝鮮戦争を背景とした**1950～53年**の好景気のこと。したがって「1950年代後半」という時期と合致しない。

②不適。1960～70年代の高度経済成長期には**産業構造の高度化**にともない、第一次産業従事者は減少し、第二次・第三次産業従事者が増加した。したがって「この時期に続いていた第一次産業従事者の増加」は誤り。

③**適当**。円高になると、輸入価格が下がるので輸入取引が有利となる。「魚介類の輸入の容易化」が、魚介類の自給率低下の背景にあるとする考察は正しい。

④不適。インスタント食品が登場したのは、**1960年代**の高度経済成長期なので、「1990年代」という時期と合致しない。